

今月のトピックス「水稲種子の温湯消毒について」

◆温湯消毒法による水稲種子伝染性病害虫の防除◆

温湯消毒法は、専用装置（写真）での加熱処理によって、水稲種子伝染性病害虫を防除する方法で、化学合成農薬使用量を低減できる利点があります。三重県内では、現在水稲作付面積のおよそ 35 % で実施されており、JA や担い手農家の大規模水稲育苗施設を中心に導入が進んでいます。

防除効果のある病害虫

ばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、イネシンガレセンチュウ



(写真) 温湯消毒装置の例 (農業研究所 黒田克利氏 原図)

◆温湯消毒法による種子消毒作業の注意点◆

(1) 温湯消毒法は手順や注意点を誤ると、防除効果が低下したり、種子の発芽不良が起こったりします。

(2) 特に平成 22 年産種子は、昨年夏の記録的な猛暑の影響で、平年に比べて割れ糲の発生量が多く、慎重な作業が必要です。

(3) 右欄の注意点を参考に、健全な苗の育成に努めましょう。

温湯消毒法による種子消毒作業の注意点

